



文部科学省検定済教科書

7 実教 公共703

高等学校公民科用

中村達也
宮崎吾郎
柘植尚則
宇野重規
愛敬浩二
荒川章義
石田 淳
廣瀬弘毅



詳述 公共

実教出版

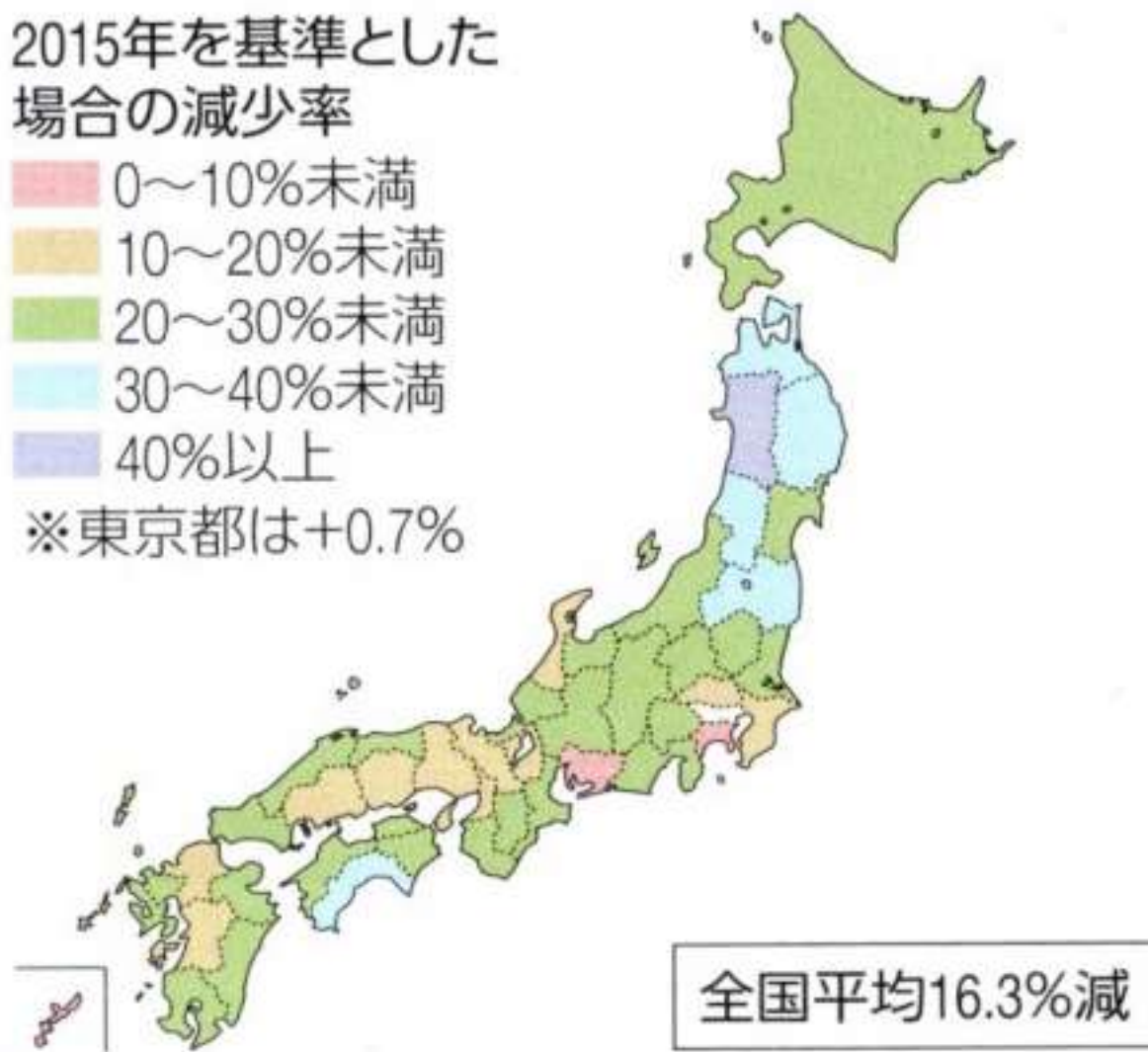


少子高齢化による人口減少や多文化社会、災害への対応など日本の地域社会の現状は楽観を許さない。地域社会の問題にどのように取り組むべきだろうか。

2015年を基準とした
場合の減少率

- 0～10%未満
- 10～20%未満
- 20～30%未満
- 30～40%未満
- 40%以上

※東京都は+0.7%



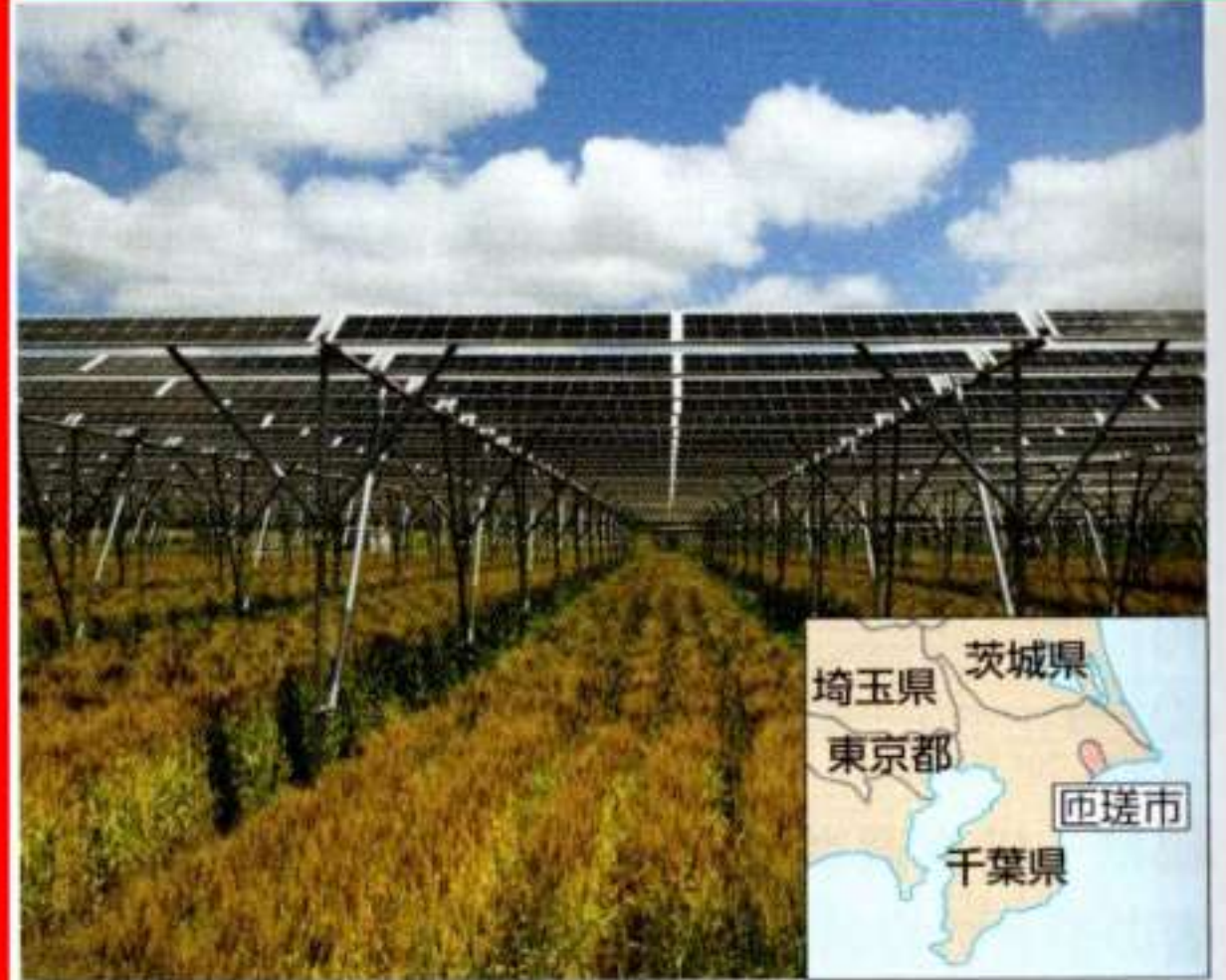
1 2045年の都道府県別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所資料による。

少子高齢化と人口減少

日本の地域社会は、少子高齢化が進むなど、その現状は厳しさを増している。大幅に人口が減少し(1)、共同生活の維持すら困難になる「限界集落」が問題になる一方、大都市圏やその周辺でも高齢者が急速に増加している。今後、生産活動に従事する人口が減少し、医療や介護において人材不足が生じることが予測されている。

農業とエネルギーの融合—千葉県匝瑳市の取り組み

地域の住民たちが自らの地域課題に取り組んだ例として、千葉県匝瑳市飯塚地区におけるソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)の事例がある。少子高齢化が進んだこの地域では、農業が続けられず荒地になってしまった耕作放棄地が増えていた。そこで地権者から土地を賃貸し、畑に太陽光が届く形の太陽光パネルを設置して、発電を開始した。パネルの下では、地元の若



2 農地に設置した太陽光パネル 千葉県、匝瑳市。

手農家からなる農業生産法人が耕作を請負い、大豆や麦を育てている(2)。

この事業によって、ソーラーシェアリングとしては日本最大規模の太陽光発電をおこなうとともに、耕作放棄地を緑の農地へと転換することに成功した。売電収入の一部は、地権者への借地料や耕作請負いの委託料のほか、地域の「村づくり協議会」にも支払われ、新規の移住者対策や、新規就農支援、さらには都市と農村との交流活動などに使用されている。ソーラーシェアリングによって、自然エネルギーだけでなく、野菜や雇用までも生み出しているのが、この取り組みの特徴である。

若者が移住する島—島根県の手取町の取り組み

島根県の手取町は、本土から約60キロ離れた隠岐諸島の一つ、中ノ島にある(4)。離島というハンデにもかかわらず、手取町では大胆なIターン(地域にもともと縁のな